

第2回亀岡市新資料館構想策定委員会 議事要旨録

日時：平成26年11月7日（金） 13：30～16：40

場所：亀岡市文化資料館3階研修室

出席者：策定委員（50音順、敬称略）

浅田勝彦・伊多波良雄・大野照文・加藤美智恵・小林丈広・田中美賀子・
田中弥生・田中曜次・中井伸男・永光寛・原田禎夫・船越卓

欠席者：関口征治・西田めぐみ

事務局：亀岡市教育委員会

教育部長：木曾布恭

文化資料館長：黒川孝宏

文化資料館職員：土井孝則・八木めぐみ・上甲典子・鈴木亜香音

社会教育課文化財係：中澤 勝

（株）日展：戸田泰史・林野雄一郎

次第：1 開会

2 教育部長あいさつ

3 資料館見学

1F 展示室Ⅰ・Ⅱ・ロビー

2F 収蔵庫（一般・特別）

3F 資料室

プレハブ（民俗資料保管）

4 協議項目

① 報告

（1）第一回議事録のホームページ公開について

（2）資料館の現状～啓発事業を中心に～

（3）館が考える新資料館の理念

② 協議事項

（1）新資料館の理念について

（2）今年度の視察先の決定と来年度の視察場所の検討

5 その他

6 閉会

1 開会

- ・ 出席委員（12名）欠席委員（2名）、本委員会開催は成立。
- ・ 委員会は公開とする。

2 教育部長あいさつ

3 資料館見学

- ・ 1F 展示室Ⅰ・Ⅱ・ロビー
- ・ 2F 収蔵庫（一般・特別）
- ・ 3F 資料室
- ・ 事務局より説明-資料館以外の収蔵施設として千歳収蔵庫（1階・2階）、一の宮収蔵庫がある。

4 協議項目

① 報告

(1) 第一回議事録のホームページ公開について

事務局より報告

- ・ ホームページ公開の名称については「議事録」ではなく「議事要旨録」とする。
- ・ 委員名は出さずに発言内容を公表する。

(2) 資料館の現状～啓発事業を中心に～

事務局より説明

・ 展示事業について

ロビー展・・・年5回程度（亀岡祭りやアユモドキ展、戦争平和展など）

常設展・・・特別展開催時以外通年

企画展・・・年2回開催。展示室Ⅱを使って行う。

特別展・・・年1回開催。常設展を撤去して、展示室Ⅰ・Ⅱを使って行う。

・連続文化財講座

・テーマを決めて実施。今年度のテーマは「ふるさと亀岡を探る」で4回開催予定。

第1回 「丹波・亀岡の古代学」

第2回 「古代焼きものの里・亀岡～古代土器の一大生産地・篠～」

第3回 「明智光秀と亀岡～本能寺の変・視点から～」

第4回 若手研究者による地域資料を利用した亀岡地域研究報告

① 「近世亀山における大誉会関係の記録」

② 「京都天明大火<天明8年(1788)>における亀山藩の消火活動」

③ 「亀岡高等女学校生(現・亀岡高校)の髪型の変化」

・市史収集資料の公開

・年3回開催。今年度は下記を開催予定。

第28回 「亀岡市広報紙」

第29回 「丹波史談」

第30回 「福知文庫」

・アユモドキ見守り隊

・小学生親子対象の自然講座

・農作業を通じて国の天然記念物アユモドキについて学び見守る講座

・年7回程度開催

・福知正温記念演劇教室 「ぶどうの会」

・小学生を中心に、亀岡に関する民話劇を上演

・24年度に、ぶどうの会の中学生3名が「石田梅岩」をテーマにオリジナルのシナリオ「夢じゃなかった!!」を作成。昨年度、そのシナリオを基に演劇を石田梅岩先生顕彰会主催の「梅岩フォーラム」で上演。

・今年度は、第57回企画展「ふるさと亀岡をつづる」の関連イベントとして、朗読劇を開催予定。

・文化資料館友の会活動

- ・ 会員 80 名
- ・ 総会、友の会講座や文化座談会、新修亀岡市史を読む会を開催
- ・ 年 2 回。春と秋に文化財研修を開催
- ・ 最近では、カイコ・ワタサークルや古文書を読む会、城下町探訪サークル、民具活用サークルなど、サークル活動を中心に活動している
- ・ 特に小学校の出前授業や城下町マップを作成するなど幅広く活動している

委員長

- ・ 以上、先程の資料館内の見学と、文化資料館における啓発事業についての説明を受けて、ご意見、ご質問はあるか。

委員

- ・ ぶどうの会についてももう少し詳しく。
- ・ 何人くらい来ているか？

委員長

- ・ 主催は資料館か？

事務局

- ・ この部屋で演劇の教室を実施しているが、講師の先生は故福知正温先生に指導を受けた方に講師としてご指導いただき、最終的には民話劇をやっていきたいと考えている。
- ・ 資料館の主催で行っており、今年は男の子 2 人、女の子 4 人の計 6 人。

委員

- ・ 資料公開について、実物公開なのか、コピー公開なのか？

事務局

- ・ 基本的にはコピー公開。資料によっては実物公開もしている。「丹波史談」や、市の

広報紙など。そういったものなら実物公開となる。

委員

- ・資料館の収蔵庫について
- ・展示室Ⅱの横の部屋がかび臭い。資料館として問題。
- ・資料館の資料の管理は、現在の状況をふまえて、50年100年ずっと未来永劫に続ける必要があり、劣化させてはいけない。
- ・新資料館構想といっても建設されてオープンするのは10年やそこらではないし、今の現状で10年以上を体制、ハード面、ソフト面でいかに対応していくかが重要。
- ・資料が多くて収蔵場所がないということは、資料受け入れができないということになり、そういった問題を足元からきちんと考える必要がある。
- ・資料の収蔵、資料の展示とあわせて、蚕の飼育を紹介しているが、葉を食べる状態での展示は問題がある。資料館ではガス、菌などへの注意配慮が不可欠であり、資料の保存、保管面から再検討してほしい。
- ・特別収蔵庫の収蔵方法について、木製棚の最上段にコンテナ箱が積み上げてあったが、地震で落下する可能性を定期査察でも指摘した。棚から資料が飛び出さない対策もあわせて考えていただき改善してほしい。一番重要なのは資料の安全なので、それをしっかりと考えてほしい。

委員長

- ・今の指摘は非常に大きな課題だと思う。特に多くの自治体では箱物から始まって、収蔵物が溢れてしまうことが多い。文化資料館の現状もそうだが、ある意味で非常に資料の豊かな資料館とも言える。委員の発言にあるように、今を出発点として、今後10年持ちこたえられるようにするため、亀岡の資料について、市民の人たちへPRしながら守っていく必要がある。

(3) 館が考える新資料館の理念

事務局より説明

- ・資料館として考える新資料館の理念については、「人づくり」「まちづくり」「未来づく

り」という視点から市民・利用者から見て望ましい理念の原案を説明。

- ・第1の理念として、歴史・文化・自然遺産を次世代へつなぐ安全・安心の新資料館を。具体的項目として次の3点。

- *資料館の設置環境・条件／防災防犯防火体制の整備。

- *各分野資料の調査研究・収集保管の充実。

- *各分野資料の収集保管・保存・展示環境の充実と展示室・収蔵庫などの環境整備。

- ・第2の理念として、利用者・見学者の幸福度数がUPする新資料館を。具体的項目として次の3点。

- *ユニバーサルミュージアム・バリアフリー化と各分野展示普及事業の充実。

- *地域を学び知り好きになれる場所と同時にかめおか学への貢献に博学連携などによる人づくりへの取り組み。

- *地域を誇りに思い、まちづくりにつなげる場所になるとともに市民協働などによる未来づくりへの貢献。

- ・第3の理念として、ふるさと地域とともに成長・進化する新資料館を。具体的項目として次の3点。

- *各分野資料データベース化と情報提供・発信システムの充実。

- *新資料館は地域のキーステーションでありまちづくりのシンクタンクとなるための充実。

- *学芸員は人・まち・未来をつなぐキーマンであり顔の見える学芸員としての自覚。

- ・さらに、平成22年～25年の4年間で資料館で取り組んだシンポジウム、フォーラムでの市民からの意見要望を10項目に集約。以下項目を紹介。

1. 資料館は、人づくりは場所づくり、「信頼できる場所づくり」という視点。
2. 亀岡だけにとどまらない「京都丹波」という広い視野でのまちづくり。
3. 資料（史料）の収集・整理・保存など「資料館機能の強化」が未来づくりの基盤。
4. 高い専門性を有する「学芸員」の配置の必要性。
5. 市民との協働を通じ、市民とともに協学する参加型資料館。
6. 本来あるべきボランティアの姿＝対等関係から成立する「セミナールーム」。
7. 参加型資料館を目指す資料館＝参加のための市民からの指摘。
8. まちづくりの中心に「文化」を。
9. 「入口」の創意工夫。

10. 新資料館を！という盛りあがり運動。

② 協議事項

(1) 新資料館の理念について

委員長

- ・以上、新資料館の理念についての説明を受けて、各委員からの意見を求めたいと考えますが、友の会の提言書が前回紹介された関係で、補足説明ありますか。

委員

- ・友の会に属している関係で、追加説明として2点。一つは、あらゆる市民が利用できる場所として、「ユニバーサルミュージアム」を目指す。ハード面だけではなくソフト面でも「さわる展示」などの工夫が重要と考える。二つ目は「夢と誇りを育てる資料館」を目指す。亀岡のことを学んで、亀岡が大好きになって、亀岡を活性化する力となる資料館へという考え方。

委員長

- ・資料館が考える理念、友の会が提案した集い学べる夢と誇りを育てる資料館、を受けて、私としては、亀岡の宝物を守り伝える観点が重要だと考える。文化資料館の場合、市史編纂での膨大な資料などがあり、そうした各種資料の保全が十分でないのは、学芸員ががんばっていないのではなく、体制として足りないのでは。他にご意見ありましたら発言をお願いします。

委員

- ・考古系博物館に勤務していた経験で、体験学習を取り入れ、さわらす工夫をしたところ大きな効果があった。小学生の見学が、5分ともたないのが、なかなか出てこない状況となった。社会見学でも同様。休みの日には、親や祖父、祖母を連れてくる。盲学校の先生が来館して火おこしや民家の竈、草葺き、カヤ葺のカヤ、古墳の石室などを利用したり、ふれたりして、それらを感じから理解することができることがわかった。ケース内展示もよいが、なかなか実感がなく理解できない。昔の陳列館ではだめ。

自分自身の経験から、それが一番のポイントである。

委員長

- ・展示を通じて楽しむこと、いろいろな意味で動機付け的なことを発生させる工夫が必要。これからの子どもたちに資料を通じ、その面白さを伝えることが重要。他にご発言は？

委員

- ・事務局からの新資料館の理念に関して、第3番目の柱で、成長・進化する新資料館は、第1番目の次世代につなぐ安全・安心の新資料館に含まれるのでは？キャッチフレーズとしてはよくわかるが、文言整理が必要。
- ・キーワード10項目について、提示順序が、ソフト面、ハード面がバラバラで順番整理が必要なのでは。
- ・理念についてで、資料館において、人々が引きつけられるひとつの要素として、文化面での付加価値がある。そこでは4つの経験価値があると言われ、①エンターテイメント②教育的価値③審美性④非日常性、がある。新資料館の理念をどこにおくかが問題。これまでの議論はきわめて教育的価値の側面だが、次世代につなぐためには、文化、経済面から見て、もっとエンターテイメント、非日常性、審美性の価値も取り入れる必要性を感じる。
- ・理念の原案においても、3つの柱ができればその細項目で4つのファクターを明示的に取り込む意識が必要と考える。

事務局より回答

- ・1番目と3番目の関係については、資料自体が1番大切であり、次世代につなぐと同時に、情報化してデータベース化し、ふるさとの皆さんが、人づくり、未来づくりに活用する考え。1番～3番については整理する。
- ・10項目のキーワードについては、平成23～25年に実施した各取り組みの時間順でのキーワードを並べたため、ランダムになった。これについても提示順序を整理する。

委員

- ・新しい資料館を考える時に、設置条例の話しにも関係するが、一体何を目的にするのかを明確化する必要がある。今の文化資料館は、多くの資料があるが、博物館法に基づいての設置でもないし、公文書館でもない。極めて不明確である。
- ・公文書館などは市役所の部局となるが、文化資料館は、教育委員会の所管。一般行政職の扱いであり、人事交流と言えは聞こえはよいが、異動となれば専門性が育ちにくい部分もある。やはり、行政機関の一部ではあるが、専門性の高いスタッフの地位の確立が大事である。

委員長

- ・京大の場合には行政文書は文書館へ、資料研究が進むと博物館へ、その成果品＝本は図書館に行く。ただ、研究中のフィールドノート、スライドなどは研究資源アーカイブとして価値付けて活用している段階。
- ・文化資料館では、市史編纂の資料が亀岡の歴史を知る上で非常に重要。それをどのように活用するのは学芸員の仕事。市民にうまく提供するためには、物、人、場がうまく機能する必要がある。
- ・市民の利用形態はネットなど色々あるが、物＝資料がしっかり保管され、きちんと維持管理されてこそ利用へ派生していく。生涯学習的な観点からも重要。
- ・教育的なことにも通じる、子育て、年齢の低い子どもさん、お母さんレベルからのご意見は？

委員

- ・本当に亀岡を好きになってもらいたいため、情報誌「Gyutto」を刊行しており、文化資料館にも毎回1ページお世話になっている。
- ・土日に子どもを連れて出かける場所としてギャラリーなどがあり、子育てしている人たちの中でおもしろそうなイベントは、口コミで伝わっていく。今の文化資料館に、イベントなどが伝わりにくいのは、やはり場所がわかりにくい点がある。
- ・新しい資料館では、開放的で、わかりやすい場所で亀岡のことを知らなくても「あそこにあるあの建物だよな」という形で知ってもらえる資料館としてほしい。
- ・展示室などを見学したが、4～5歳の身長1mぐらいの子どもでも見える展示方法も必要。子ども連れなので休憩できるスペース、子ども用のトイレなども必要。

- ・高校生で文化資料館に行くのは、現状として難しい。ギャラリーの自習ルームへは行っているが、資料館にはちょっとした楽しみ、昼食もできる、ジュースがある、などがない。
- ・広報啓発では、やはり人の口コミが1番で、少し時間があるので文化資料館に行ってみよう、資料を見てみよう、という流れにするには、ギャラリーや色々な場所で開催されるイベントに出向いて、PR、展示、アピールをする必要がある。どんどん町に飛び込んでほしい。

委員長

- ・新しい資料館には、サービス機能が求められることと、わかりやすさが場所的、内容的にも必要であるといったこと。さらにそれを積極的に出向いて資料館の存在をアピールする必要がある。

委員

- ・亀岡には祭りがあり、街並みもあり、京都ではあまり見られない文化なども継承されているのに、友人や知人が来ても、行く所がないというのが一番の問題である。
- ・資料館西側の道路と高架工事が完成し、雑水川沿いの遊歩道の通行が可能となった。散策している市民から「こんなところに資料館があったんや」という声もある。確かに場所としてわかりにくいですが、私としては決して悪くない所だと考えている。
- ・館内を見学したが、収蔵庫などで資料の裏側などが破れていて気になった。先程議論にあったが、10年経過すれば痛みがひどくなるのではと感じた。新資料館の理念ではないが、その間にいかにして今ある資料を保存していくのか、委員会からの提言もあるので、市民としてどのような形がよいのか議論していきたい。

委員

- ・館内を見学して、親近感を持ったし、活発に活動されていると感心した。これまでの各委員の意見を聞いて、一番に思ったのは、収蔵庫の充実で、館内では特別収蔵庫が重要。区分けされ、燻蒸された資料が保管され、出入も管理されているが、その特別収蔵庫に入りきれない資料が多くある現状を改善するためには、スペースを増やす必要がある。

- ・歴史系の展示は古文書中心で大変であるが、考古系で土器などをさわらせる展示など、体験型展示の充実は必要だと考える。
- ・蚕の展示についての意見があったが、琵琶湖博物館のように水族館を取り入れて非常に人気を博している例もある。資料館でも亀を展示しているが、むしろ人気があると思うが、展示スペースと他のスペースとの区分けを考える必要がある。蚕の件も同様で一つの論点として協議する必要があると考える。

委員長

- ・資料の多さの現状で、いずれにしても収蔵庫についてしっかりと考えること。蚕などの展示と資料の保存についても、共存してやるのか、資料中心でやるのか、どのような資料館規模を考えることによっても議論をする必要がある。

委員

- ・館内を見学して多くの資料があったが、残すべきものと、処分すべきものがあると感じた。生徒の作製した作品などは大事ではあるが、3年くらいの一定期間を過ぎれば整理するほうがよいと考える。
- ・ギャラリーでのサイエンスフェスタで、子どもたちが和気あいあいと嬉々として遊んでいる姿を見ると理科には負けると感じた。館内見学で、アユモドキやオオサンショウウオなどの自然遺産を紹介しているが、亀岡全体の風土と気候・自然についての展示がなかった。もっと民俗、歴史とも関連付けて紹介する必要があると考える。

委員長

- ・亀岡には保津川があり、植物、動物がいて歴史がある。ご指摘の通り、地理とか風土という観点も重要といえる。

委員

- ・小学校では資料館を利用することがある。私自身2度ほど利用した。市のバスを利用したケースでは、滞在時間が30分ぐらいであった。見学して、説明を聞いて、メモをして、学校へ戻り整理復習をする。それで、本当にわかったのか、実のところわからないのが現状。

- ・ それに対して、体験学習は非常に重要で、さわって、説明を受けて、勉強するのは、すごく心に残り、理解が深まる。もちろんさわることによって潰してしまう危険性もあるが、あえて、それでもかまわないもので活用できればと思う。小学校の教育段階では有効である。資料館へ行き、体験活動をして学習に活かすには、やはり2時間くらいは必要か。
- ・ 小学校では興味のある子は博士クラスで、実によく理解している。すごく関心を持つ子どもを育てるという視点は、資料館にあるのでは。学校以外の時に資料館へ行って、展示会を見たりした体験がきっかけとなり、歴史、文化に関心を持つ。私自身の経験がそれで社会見学でのパン工場見学がきっかけで社会に興味を持った。些細なことから好きになる。そんな観点からの資料館づくりを、と考える。
- ・ 館内見学で、屋外スペース（グラウンド等）が広々とあるので、その有効活用ができてないか。

委員

- ・ 観光面から話しをするが、地域資源をしっかりと整理して、次代に引き継ぐことが大事であり、資料館の機能にそういう教育的目的を持っているのが第一義的だと考える。
- ・ 亀岡を訪れる方は、非日常を求めて来られる。色んなツールを使って亀岡の観光資源としての文化、伝統、産業を発信している。その時に、一番広く理解をしてもらえる施設として、ミュージアム的施設が必要と考える。
- ・ 最近では亀岡に来られる外国の方は、亀岡の3大観光ではなく、亀岡の文化、伝統で何が体験できるかを問われる。砥石屋さんの体験など。特別ではなく常時体験できることが重要。新しい資料館もそのような民俗、芸能、産業からの視点で、体験できるような施設であってほしいと考える。

委員長

- ・ 以上で、出席委員全員の意見を聞きました。今回の委員会で館内見学及び新資料館の理念についての各種の意見をいただいた。その結果、資料の保全、市民利用の利便性、所在場所、各種活動における生き物展示と資料保存の区別、理念に4つの要素（①エンターテイメント②教育的価値③審美性④非日常性）の導入、観光面への活用などを整理して、次回の委員会につなげ、議論を重ねたい。

(2) 今年度の視察先の決定と来年度の視察場所の検討

事務局

- ・まず今年度の視察先について希望等ありましたらお願いいたします。

委員長

- ・名古屋市の南山大学の人類学博物館は最近リニューアルしてさわれる展示を積極的にしているので見学する価値はある。

委員

- ・委員長の京都大学総合博物館の収蔵庫はすばらしい。文化財を保存していく上で、収蔵庫に焦点を当てた見学も必要では。

委員長

- ・私の博物館ならいつでも。視察なので府外、県外とっていたので。

委員

- ・富山県の氷見市は。氷見市博物館でも魚の保護や、和船の復元など様々なとりくみをしている。漁業文化交流館なども。2月なら厳寒期となるので来年度でもよい。

事務局

- ・資料館としては、博学連携を幅広く行っている岐阜県美濃加茂市の「みのかも文化の森」を考えている。

委員

- ・行程の中に、収蔵庫が見られる所を入れてほしい。

事務局

- ・事務局で、各候補先を調整し2月頃を予定に原案を作成。各先生へ参加の可否の連絡を行う。収蔵庫も拝見できるようにしたい。

- ・次回第3回委員会の日程について、日程調整表を配布。1月下旬を予定。株式会社日展への提出をお願いしたい。

5 その他

特になし

6 閉会